

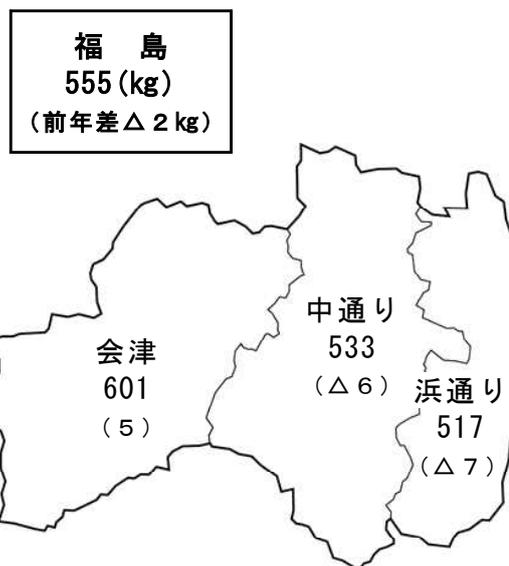
平成28年産水稻の収穫量（福島）

— 水稻の10a 当たり収量は555kg（前年産に比べ2kg減少）
— 収穫量（子実用）は35万6,300 t

1 作付面積

平成28年産水稻の作付面積（子実用）は6万4,200haで、前年産に比べ1,400haの減少となった。このうち、主食用作付面積は6万100haで、前年産に比べ1,400haの減少となった。

作柄表示地帯別10a 当たり収量



2 作柄概況

水稻10a 当たり収量は、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が「平年並み」となり、出穂期以降、おおむね気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も気温が平年を上回り、登熟（開花、受精から成熟期までの子実の肥大、充実）が「やや良」で、555kgとなった。

注：（）内の△は、前年産に比べ減少していることを示している。

3 収穫量

以上の結果、収穫量（子実用）は35万6,300 tで、前年産に比べ9,100 tの減少となった。このうち、主食用の収穫量は33万3,600 tで、前年産に比べ9,000 tの減少となった。

4 被害概況

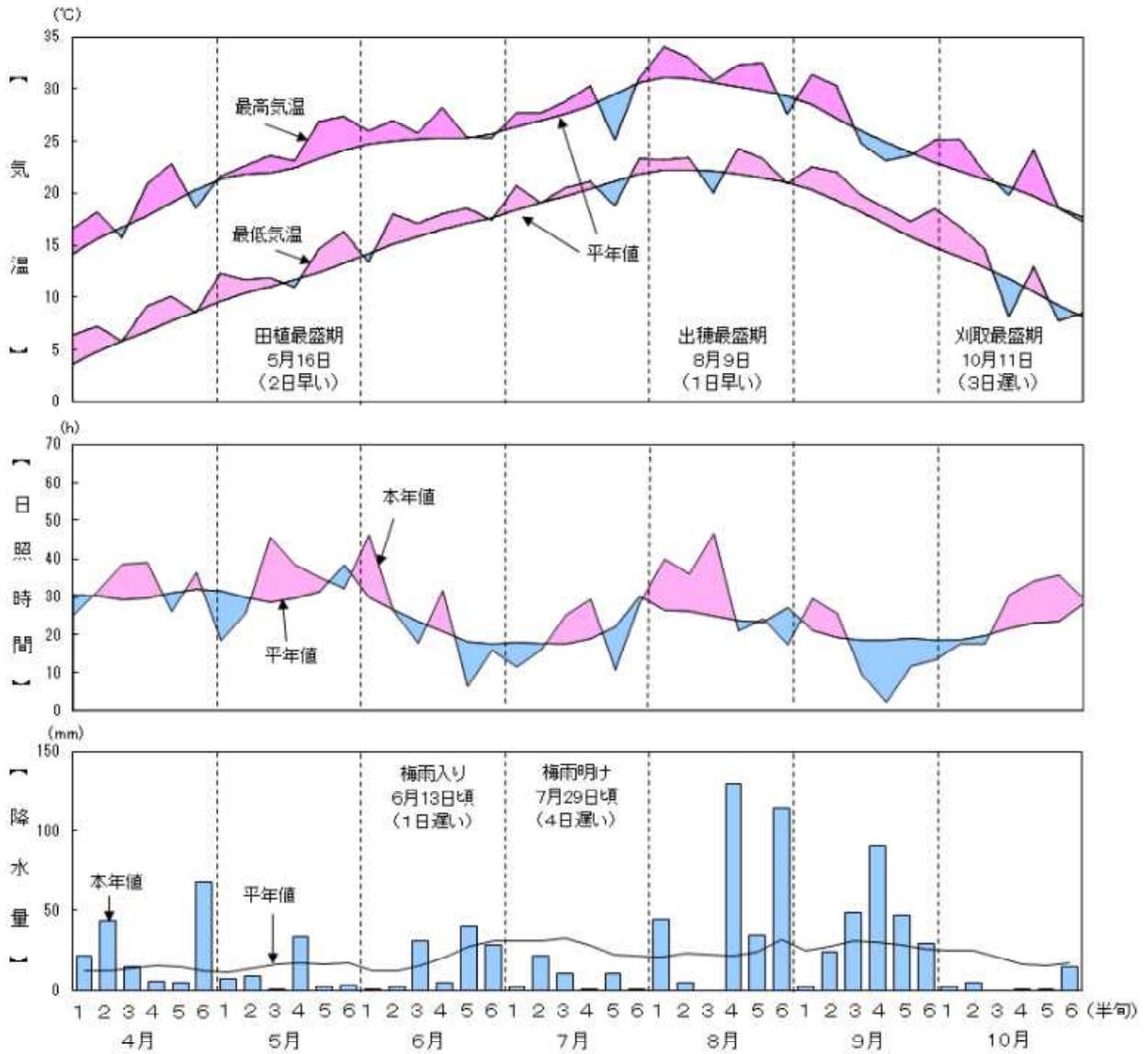
被害量は1万9,100 tとなった。

被害種類別にみると、気象被害が1万2,800 t（被害総量に占める割合67%）、病害が4,510 t（同24%）、虫害が1,260 t（同7%）となった。

- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。
- 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

【参 考】

平成28年半旬別気象図(福島)



資料：気象庁ホームページより

注：1 田植期、出穂期及び刈取期の最盛期は、県平均の期日である。

2 () 内の日数の遅速は、対平年差である。

お問合せ先

東北農政局 福島県拠点 統計チーム
 電話：024-534-1903 内線341
 F A X：024-525-2267